

人口減少に歯止め！ 「移住体験施設の建設工事について」

東秩父村の人口は「東秩父村人口ビジョン」によると、2040年には人口1625人、2060年には853人となっており、現在想定以上の速さで減少しています。こうした状況を踏まえ、平成28年に「まち・ひと・しごと創生法」に基づき「東秩父村まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、人口減少の速度を少しでも遅らせるための施策を打ち出しています。

このたび「東秩父村まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づく事業の1つとして、東秩父村への移住のきっかけをつくるため、古民家を活用した東秩父村移住体験施設の建設を実施します。

本施設の建設にあたっては、埼玉県県の補助金である「ふるさと創造資金」を活用することで建築にかかる村の財政的負担を軽減しています。

＝概要（移住体験施設）＝

●施設構造

木造在来軸組工法〈2階建て〉

●建設地

東秩父村大字奥沢234番地1

●事業期間

移住体験施設 平成30年7月～平成31年3月末

●運用方法

移住体験施設 簡易宿所（公設公営）

●予算・補助金等

予算2,800万円

補助金名「ふるさと創造資金
（県連携移住トライアル事業）」

補助額1,500万円（総事業費の4分の3）

問合せ 企画財政課 移住定住担当 ☎82-1254



版画フォーラム2018 和紙の里ひがしちちぶ展(第15回) —大盛況！名残惜しつつも終了！—

「版画フォーラム2018和紙の里ひがしちちぶ展」が、6月16日（土）から23日（土）までの8日間、「東秩父村和紙の里」で開催され、約2,400人にもおよぶ方々が訪れ、大盛況のうちに幕を閉じました。

この展示会は、版画フォーラム実行委員会が主催し、本村をはじめ県や多くの機関、企業が後援しています。

今回は15周年であり、昨年よりも一層の「感謝」の気持ちを込めた展覧会となったようです。

全国および海外から合わせて211人、334点の作品が出展されました。海外からはアメリカやブルガリアより22点が出展し、多文化が融合した国際色豊かな会場となりました。

版画フォーラム大賞には、山本麻実さん（広島県）の『朱夏図（乳版）』が選ばれました。「朱夏」は人生の夏であり、30代前半から50代後半の生きる真っ盛り年代を表すと言われていました。身を立て、惑わず過ごすことにより、天命を知り、次の人生（白秋・玄冬）へつないで行く大切な年代で、まさに描かれている「ひまわり」そのものでしょう。太陽へと目をそらさず向け、まぶしい光を全身に浴び、精一杯咲き誇る、そんな人生がうかがえます。白・黒・グレーと単色の作品にも関わらず、朱く燃え上がる様が感じられる大作でした。その他の作品も、全てが負けず劣らず、目から心に届くメッセージを放っていました。

年々飛躍する版画フォーラム。節目の15年を迎えましたが、そこで留まらず、来年はまた一歩先の節目へと向かっていきます。来年もご期待ください！

